

対象	中学校以上
教科	国語科
該当 単元	中学 1 年以上 読解力を付ける ・段落相互の関係を 捉える
教科書	東京書籍・光村図書等
掲載日	2019. 8. 31. 朝刊特報 11 版



乏しい情報 自治体頼み

13年ぶり新地図記号「自然災害伝承碑」

1 国土地理院が十三年ぶりに新たな地図記号「自然災害伝承碑」＝イラスト＝を作り、ウェブ版の地理院地図で公開している。自然災害の記録を伝える石碑などの場所を分かるようにした取り組み。全国の市区町村に伝承碑の情報提供を求めている。ただ、専門家からは「自治体に頼らず、国土地理院が独自に伝承碑を調べるべきだ」という声も出ている。（稲垣太郎）

2 自然災害伝承碑の地図記号は従来の記念碑の記号に碑文を表す縦線を加え、縦、横、府県にある九十四市区町村の線幅を約一・五倍にしたものだ。この記号を作り、三月に「災害教訓の周知・普及に取

り組みます」と発表。四月から全国の市区町村に、管内の自然災害伝承碑に関する情報の提供を依頼した。

3 六月十九日までに四十八市区町村から百五十八基の情報が寄せられ、国土地理院の職員がウェブ版の地理院地図に掲載。七月十二日に十三市区町村の二十四基、同三十一日に十二市区町村の三十五基を追加した。

4 さらに二十九日、防災の日九月一日に合わせ、ウェブ版の地理院地図に二十一市区町村もあり、増えているのは「間違った」と手応えを感じている様子だった。

碑文 難しい解釈 「国土地理院 独自調査を」

5 江戸時代の津波被害について伝える「大地震両川口津浪記」の石碑＝大阪市で、58人が死亡、5人が行方不明となった2014年9月の御嶽山噴火災害犠牲者慰霊碑（長野県王滝村）。「火山災害」として掲載された＝国土地理院のホームページから



6 一方、名古屋大減災連携研究センターの武村雅之客員教授（地震学）は、取り組みの問題点を挙げる。関東大震災の慰霊碑などを訪ね、地域防災活動に用いる資料としてまとめたきた専門家だ。

7 武村教授は「国土地理院は、だれかが調べた情報を載せているだけ。碑文の解釈に誤解がある可能性もある。国土地理院が予算をかけ、責任を持って碑文の全文を掲載すべきだ」と言う。さらに「地元教育委員会の担当者ら

が読む碑文は部分的で、間違いないか」と地理院の取り組みもある。だから市区町村は国土地理院から情報提供を求められ、困っている。情報提供が少ないのは当たり前だ」と指摘した。地理院の調査には、こういった助言を添えて資料を提供したという。

8 一方、古文書を中心に南海地震の記録を調べる徳島県立文書館の金原祐樹課長は「南海地震の歴史も載せてもらい、全国的なものになると、日本の地震の実態が全国の皆さんに分かってもらえるのである。」

9 伝承碑が掲載されたウェブ版の地図を見るには、国土地理院のホームページから地図に入り、左上の「情報」をクリック。情報リストから「自然災害伝承碑」を選び、「すべて」や「洪水」などを選択する。ある程度、地図を拡大すると伝承碑の記号が出る。さらに記号をクリックすると、碑の名前や碑文の内容を読むことができる。

※ 本文の段落のはじめにある数字は、その段落の番号を示しています。

問1：国土地理院の取り組みの目的は何でしょうか。10字で本文中から抜き出しましょう。（ ）

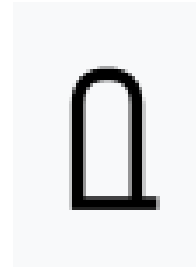
問2：従来の記念碑の地図記号を次から選びましょう。

ア

イ

ウ

エ



問3：第1段落にある「自然災害の記録を伝える石碑などの場所を分かるようにした取り組み」について具体的に書かれているのは、何段落から何段落まででしょう。第（ ）段落から第（ ）段落まで

問4：取り組みの問題点について具体的に書かれているのは、何段落から何段落まででしょう。第（ ）段落から第（ ）段落まで

問5：第8・9段落にはどんなことが書かれていますか。説明しましょう。

第8段落では、国土地理院の取り組みの問題点に対して（ ）している人もいるという反論を書いている。第9段落では、（ ）が掲載されているウェブ版の（ ）を見る方法が具体的に書かれている。